

まちから、ちから。40

くらし・まちづくりコーディネーター
ジャーナリスト 齋藤 喜以子

玉川つ子と新住民との住まい

「ぬくぬくハウス」は、オーナーである温井克子さんの名にちなんだものだが、体温が感じられる心地よいネーミングだ。親の代からこの地で暮らし、地域の人たちの温かさに触れて育ったという温井さんは、ずっとまちの移り

新旧住民が二人三脚で進める 地域の居場所づくり



「ぬくぬくハウス」コアメンバーの皆さん



「ぬくぬくハウス」(手前)と新住民が暮らす高層マンションは隣り合わせ



オーナーの温井克子さん。社会福祉士として、長年、福祉の仕事に携わってきたが、仕事の傍ら若者たちに交じり、大学の社会福祉科で学ぶ学生でもある

ぬくぬくハウス
(東京都世田谷区)

東京と神奈川の間を流れる多摩川沿いの東急電鉄・二子玉川駅^{ふたこたまがわ}周辺は、民間としては都内最大級と言われる再開発が進み、ショッピングセンターや高層マンション・緑地が立体的に交錯する大規模な複合施設に変貌した。一方、その周辺には、多摩川の風景と人とのつながりを大事に住み続けてきた住民がおり、新旧住民が隣り合っただけで暮らしている。今回は、この玉川地区で、新旧住民が互いの特性を尊重し、協力し合っただけで、地域に暮らす誰もが安心して過ごせる居場所づくりに取り組む例を紹介する。さて、その居場所、「ぬくぬくハウス」とは？

変わわりを見てきた生粋の玉川っ子。大人になつてからは福祉の仕事に携わる。東日本大震災の際は、被災地に何度もボランティアに行き惨状を目の当たりにしたため、地域の結束の大事さを、さらに強く感じるようになった。そして、長年連れ添った夫を見送ったのを機に、広い自宅を開放し、公営の施設にはないやり

方で、地域の誰もが憩える居場所をつくりたいと考えるようになった。

平成26年、二子玉川の1000年先を見据えたまちづくりを検討する「二子玉川1000年懇話会」の「まちづくり研究会」に参加した。そこで、後に「ぬくぬくハウス」のコアメンバーとなる新住民らと出会って意気投合。そこから、自宅を地域に開放したいという温井さんの想いを具体化するプロジェクトが動き出す。

世田谷区には、区民の暮らしやすい環境づくりと地域の絆を育むことを目的に、個人所有の建物を生かす活動に対し、「地域共生のいえ」として認定する制度がある。温井さんの場合、オーナー自身の意思であり、営利を目的としない地域に開かれた家という条件にも



温井宅の片づけを兼ねたガレージセール。収益を活動費に



地域住民に向けた「ぬくぬくハウス」説明会。右は、認定された「地域共生のいえ」に掲示するプレート

まぜっこ・ぬくぬくのイベント



庭の井戸水を使った流しそうめんイベントも大にぎわい



子育て家族からシニアまで楽しんだ餅つき大会

ぬくぬくハウスの3つの柱

- **こども・ぬくぬく**
毎週月曜日15時～18時、放課後の子どもの居場所
- **おとな・ぬくぬく**
大人の学校（講座、サークル活動）
- **まぜっこ・ぬくぬく**
大人も子どもも楽しめるイベント、季節の行事

「地域共生のいえ」認定をめざす！

合致する。早速、「地域共生のいえ」づくり支援を行っている「一般財団法人世田谷トラストまちづくり」を訪ねて相談。様々なアドバイスを受けながら開設に向けた準備を進めるとともに、先行する各地の事例を視察し、イメージをより具体化していった。

さて、自宅を開放するとしても、長年暮らしてきた家にはモノが溢れている。そこで、片づけを兼ねたガレージセールを実施した。中には手放すのが惜しいものもあったが、次の人が大事に使ってくれるならと、自分を納得させて。収益18万円は、その後の活動費にあてている。そして翌3月までに、1階2部屋の改装をほぼ終えた。

互いの特性を尊重して

それからは、「地域共生のいえ」の認定に向けて、近隣住民への説明会やプレ企画を実施。敷地内にある井戸水を使った「流しそうめん」や「地球を冷やそう！打ち水」イベントは、子どもたちにとって減多にできない貴重な体験となった。また大人向けには、多摩川対岸の川崎にゆかりのある「岡本かの子と太郎」の連続講座を実施。コンセプトを具現化した一連の活動が認められ、同27年9月、世田谷区内で18番目の「地域共生のいえ」に認定された。昨年暮れには、温井さんの家にあつた石臼と杵で「餅つき大会」を開催。子育て家族からシニアまで幅広い層が参加し、つきたての餅をみんなで味わった。

高層マンションに移り住んできた新住民は、多彩な人材の宝庫だ。コアメンバーは、教育・マーケティング・都市開発・出版・多世代交流などの経験がある専門家、企画や運営にそれぞれの強みを発揮している。また、セミナーの講師陣にも事欠かない。例えば相統税など、地域住民にとって関心の高いテーマを設定し、ひと声かけると快く引き受けてくれるボランティア講師がいるからだ。地域の信用力とネットワークがある温井さんと、人材の宝庫である新住民。ともすると、対立の構図になりかねない新旧住民が、「ぬくぬくハウス」が掲げる「地域の居場所づくり」という共通目標に向かって、いい具合に機能する。次の目標として、組織の信頼性をさらに高めるため、NPO化をめざすという。